

秋田看護福祉大学

令和7年度 大学機関別認証評価
評価報告書

令和8年3月

公益財団法人 日本高等教育評価機構

秋田看護福祉大学

I 評価結果

【判定】

評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。

II 総評

各基準の評価、大学が設定した独自基準、大学が挙げた特記事項は以下のとおりである。

各基準の評価

基準 1. 使命・目的	満たしている
基準 2. 内部質保証	満たしている
基準 3. 学生	満たしている
基準 4. 教育課程	満たしている
基準 5. 教員・職員	満たしている
基準 6. 経営・管理と財務	満たしている

独自基準

基準 A. 地域連携

特記事項

1. 実践カリキュラムによる“人”を大切に、“こころ”を育てる少人数教育
2. 行政と連携し、地域の医療と福祉を教育課程内外で学ぶ地域密着型の教育体制
3. 法人内大学間の連携と遠隔講義システム

III 基準ごとの評価

基準 1. 使命・目的

【評価】

基準 1 を満たしている。

1-1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映	満たしている
-------------------------	--------

【理由】

大学の使命・目的、学部・学科ごとの教育研究上の目的を建学の精神に基づいて学則に定めている。使命・目的等は、ホームページ、学生便覧、各種式典、オープンキャンパス、進学説明会などを通じて学内外に周知している。



使命・目的等を踏まえ「5か年重点計画」として中期計画を策定し、取組みの成果を毎年度検証している。

三つのポリシーを大学の使命・目的、学部・学科ごとの教育研究上の目的を反映して定め、学内外に周知している。

使命・目的等を実現すべく教育研究組織を整備し、併せて教育研究機能を補完するために「秋田看護福祉大学総合研究所」などの附属施設を設置している。

社会環境の変化に対し、使命・目的等を検証しながら、学科名称の変更など組織の改編を実施してきており、三つのポリシーの変更なども行っている。

基準 2. 内部質保証

【評価】

基準 2 を満たしている。

2-1. 内部質保証の組織体制	満たしている
2-2. 内部質保証のための自己点検・評価	満たしている
2-3. 内部質保証の機能性	満たしている

【理由】

自己点検・評価について学則や規則に定め、内部質保証の全学的な方針も策定し、教職員に周知している。「自己点検及び自己評価委員会」を中心とした内部質保証のための恒常的な組織体制を構築しており、学長のリーダーシップのもと責任体制も明確なものとなっている。

「自己点検及び自己評価委員会」や学部・学科、各種委員会、法人などが連携して、IRを活用し、エビデンスに基づいた自己点検・評価を自主的・自律的に毎年度実施している。

卒業時大学生生活満足度調査、授業評価アンケートや学生面談などを活用して、学修支援や学修環境などに対する学生からの意見や要望をくみ上げるシステムを学生委員会などが中心となり構築している。学外実習施設や就職先へのアンケート調査などを通じた学外関係者からの意見や要望も、教育方法や内容の向上、学修環境整備の実施につなげている。三つのポリシーを起点とした内部質保証により入試改革、新たな科目の設置や教員の指導方法の改善など、教育研究の向上につなげることで学修成果の改善をもたらしている。自己点検・評価や認証評価の結果は中期計画や事業計画に反映し、学生相談室の機能の強化やICT環境の充実への努力など、大学運営の改善に結びついている。自己点検・評価の結果は、ホームページを利用して公表することで学内外からの理解と支持を受ける努力を行っている。

基準 3. 学生

【評価】

基準 3 を満たしている。

3-1. 学生の受入れ	満たしている
3-2. 学修支援	満たしている
3-3. キャリア支援	満たしている
3-4. 学生サービス	満たしている
3-5. 学修環境の整備	満たしている

【理由】

アドミッション・ポリシーを大学の使命・目的等に基づき定め、大学案内やホームページで周知している。入学選抜において、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れに努めている。

各学科の教務委員会が中心となり、教職協働による学修支援を行っている。看護福祉学部看護学科の臨地実習において、有資格者の実習補助者を適切に配置して指導を行っている。オフィスアワーは、全学的に実施している。障がいのある学生の受入れも適切に対応し、クラス担当を含め関連する教職員が協力して中途退学予防の対策などを講じている。

「キャリアデザイン」を開講するなどキャリア教育を実施し、就職委員会を中心に関係部署が連携してキャリア支援を適切に実施している。公務員試験や国家試験対策の充実を図るため同一法人であるノースアジア大学の「国家試験等センター」が支援を行っている。

学生サービスにおいては、各委員会やゼミナール担当教員を含め対応に当たっている。保健室や学生相談室を整備し、保健師や精神保健福祉士などの資格を持つ教職員が学生の心身に関する相談に対応している。大学独自の奨学金制度を整備するなど学生の経済的支援を行っている。

図書館は、教育研究のため十分な蔵書を有し、閲覧席数も適切であり、「図書館だより」の発行など利用促進の工夫を行っている。校地・校舎は設置基準、耐震基準を満たしており、バリアフリーにも配慮している。

〈参考意見〉

○看護福祉学部医療福祉学科の収容定員が未充足であるため、入学者の確保に向けた取り組みが望まれる。

基準 4. 教育課程

【評価】

基準 4 を満たしている。

4-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	満たしている
4-2. 教育課程及び教授方法	満たしている
4-3. 学修成果の把握・評価	満たしている

【理由】

建学の精神及び教育目的に基づき、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの方針を統合的に策定し、学内外に周知している。令和 3(2021)年度以降、学科名称の変更やカリキュラム改訂に併せて方針の見直しを行い、教育目的と到達目標を社会に明確に示している。単位認定及び成績評価は、学則や履修内規に基づき厳正に運用されている。進級・卒業認定・修了認定は教務委員会及び教授会の審議を経て決定されており、手続きの透明性が確保されている。

教育課程は、カリキュラム・ポリシーに基づき体系的に編成されている。看護学科では「看護教育モデル・コア・カリキュラム」に準拠した内容を検討し、医療福祉学科では国家試験受験資格に係る科目を中心に実践的教育を実施している。教養教育も人間形成の基盤として位置付けられ、全学的に実施されている。教授方法については、アクティブ・ラーニングやグループワーク等を取入れ、学生の主体的な学びを促進している。授業規模も教育効果を考慮した適正な人数で運営されており、教育の質を保つ工夫が見られる。

学修成果の把握・評価については、ディプロマ・ポリシーに対応した成果指標を明示し、学修状況、資格取得状況、就職状況、卒業時大学生生活満足度調査等を通じて多面的に評価している。その結果は FD 活動や授業改善に反映され、教育の質保証システムが機能している。

基準 5. 教員・職員

【評価】

基準 5 を満たしている。

5-1. 教育研究活動のための管理運営の機能性	満たしている
5-2. 教員の配置	満たしている
5-3. 教員・職員の研修・職能開発	満たしている
5-4. 研究支援	満たしている

【理由】

学長から委任された委員会が教育研究活動を組織的に実施し、審議内容は速やかに学部長を経由して学長に報告されている。各学科は率直な意見交換の場である「学科ミーティング」で、理事長、学長の方針を教職員に伝達しつつ、各種委員会からの報告事項や、学生に関する情報共有を行っている。必要な職員を適切に配置するとともに、権限分散、責任の明確化が図られ、大学の使命・目的に沿った教学マネジメントが適切に機能している。

専任教員数と教授数は設置基準を満たしており、教職員の採用・昇任の方針に基づく規則、手順に沿った運用が図られている。

「FD 推進委員会」が中心となり、FD 講演会・FD 公開授業等を実施しており、教育内容や方法の改善を図っている。また、学生による授業評価アンケートの分析結果を教員にフィードバックし、学生満足度の向上や授業改善につなげている。

SD に関しても「学校法人ノースアジア大学職員研修要綱」に基づき、各種研修を計画的に実施している。

学術調査研究のため「秋田看護福祉大学総合研究所」が設置され、教員の研究活動を推進している。研究倫理に関する規則も整備されており、外部資金の導入の努力も行っている。

基準 6. 経営・管理と財務

【評価】

基準 6 を満たしている。

6-1. 経営の規律と誠実性	満たしている
6-2. 理事会の機能	満たしている
6-3. 管理運営の円滑化とチェック機能	満たしている
6-4. 財務基盤と収支	満たしている
6-5. 会計	満たしている

【理由】

各種規則を適切に整備し、全教職員に対する組織倫理・研究倫理教育を毎年実施している。情報公開や、環境保全、人権、安全等への配慮についても意識高く取り組んでおり、学内外に対する危機管理体制が整備されている。

理事会は、重要事項の審議及び法人の業務についての意思決定機関として適切に機能しており、理事選任体制も整備されている。事業計画及び収支予算は、中期計画に基づき適正に執行されており、必要な情報公開も問題なく行われている。監事は寄附行為に従い適切に選任され、「監事監査規程」に基づく監査が実施されている。

理事長を含む「所属長会議」を活用し、各部署との円滑な情報共有が図られている。評議員は寄附行為に基づき適切に選任され、理事会と連携しながら機能している。

大学の財務状況は中期計画に基づいた財務運営を行い、完成年度以来継続して基本金組入前当年度収支差額は収入超過となっており、財務基盤は十分に確立されている。

経理規程と施行細則を定め、適正な会計処理を行っている。また、予算の執行にかい離がある場合は補正予算を編成している。会計監査は監事と公認会計士により厳正に実施されている。

IV 独自基準

基準 A. 地域連携
A-1. 大学と地域社会との連携
A-2. 教員と学生による地域との連携

【概評】

教員の専門性を生かした地域委員会や審議会への委員派遣、講演会への講師派遣などを通じ、地域社会の課題解決や人材育成に関わる多様な活動を展開している。大学公開講座や高大連携授業、出張授業などを通じて、地域住民や高校生への学びの機会も提供しており、地域教育との連携が継続的に行われている。これらの取組みは、大学の人的資源を活用した地域社会との協働の実態を示しており、地域連携の多面的な活動が行われている。

学生と教員が一体となった地域貢献活動を多角的に展開しており、地域との連携において特色ある実践が見られる。特に、20年間継続して実施されている「思春期ピアカウンセリング事業」では、学生が若年層の心の健康保持やストレス対処の支援に直接関わることで、地域のニーズに応じた具体的な成果を挙げている。また、「大館市機能別消防団」への学生参加は、防災力の向上や地域住民との信頼構築に寄与しており、学内外の学びを地域社会で実践する模範的な取組みである。加えて、「大館市健康づくりチャレンジ事業所認定事業」や国際交流活動などを通じて、学生の学びの機会と地域貢献の両立が図られており、教育と地域連携の融合が十分に機能している。今後は、学生の学業との両立や継続性に課題を残すが、成果の発信により、地域社会への貢献や活動の持続性に努めている。

〈優れた点〉

- 秋田県の委託を受け、学生と教員が一体となった「思春期ピアカウンセリング事業」を20年間継続しており、養成された「思春期ピアカウンセラー」が中高生の心の健康保持やストレス対処を支援し、啓発活動を体系的に行っている点は高く評価できる。
- 学生が参加する「大館市機能別消防団」の活動は、地域防災力の向上に直結する実践的な地域貢献であり、訓練や研修を通じて安全管理能力を養い、地域住民との信頼関係を築くなど、大学と地域の連携体制が持続的に構築されている点は高く評価できる。

特記事項（自己点検評価書から転載）

1. 実践カリキュラムによる“人”を大切にし、“こころ”を育てる少人数教育

本学では小規模大学のメリットを生かし、丁寧な実践教育を行っている。本学の少人数教育の特徴は、「Face to Face」をキーワードに、クラス担当やゼミナール担当教員が中心となって、1年次から一人ひとりの適性や能力を的確に把握しきめ細かい充実した学修支援と進路指導を行っているところにある。実践教育を重視し、教員と学生が密接な関係を築いており、特に演習・実習科目では少人数グループに教員を配置し、学生一人ひとりの個性を見極めながら、“人”を大切にし“こころ”を育てるための丁寧な教育を行っている。いわば「面倒見の良い大学」が本学の真骨頂である。これらの成果は、看護学科、医療福祉学科における高い国家試験合格率や、開学以来17年連続100%の就職率につながっている。

2. 行政と連携し、地域の医療と福祉を教育課程内外で学ぶ地域密着型の教育体制

本学では地元大館市における福祉行政、医療福祉マネジメント、また医療・福祉の現場から看護福祉の専門職として求められる基本的な視点を身につけることを目標として、看護学科、医療福祉学科の共通基盤科目に「医療と福祉のマネジメント」を配置している。この科目は、大館市長をはじめ大館市福祉部等の複数の職員及び大館市立総合病院の看護部長や看護師長が12回の授業を担当し、本学看護学科と医療福祉学科の教員による講義と合わせて授業を行っている。学生は身近な市町村の医療・福祉行政をリアルタイムで学ぶことができ、この授業で学んだ知識を以後の講義や実習に応用展開し活用している。

また、秋田県から継続して事業委託を受け活動している思春期ピアカウンセリング事業や、市の条例に基づき大館市消防本部と連携した機能別消防団を始めとした様々な地域貢献活動を行い、教職員と学生による地域に密着した教育研究活動を実践している。

3. 法人内大学間の連携と遠隔講義システム

医療福祉学科では社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の資格取得を目指す医療福祉コースと福祉マインドを持った公務員、企業人を目指す行政企業コースの2コースを設け、平成29(2017)年度には、秋田市のノースアジア大学40周年記念館に秋田キャンパスを設置している。現在、秋田キャンパスでは医療福祉学科の合計48人の学生が学んでおり、大館キャンパスからの遠隔講義や秋田キャンパスでの対面授業と、単位互換制度・科目認定の利用による同一法人内のノースアジア大学や秋田栄養短期大学の授業により学修している。また、ノースアジア大学キャリアセンターや国家試験等センターでの支援を受けている。

秋田キャンパスにはキャンパス長1人と事務職員1人を配置し大館キャンパスの教職員と連携し、大館キャンパス同様にきめ細かい個別支援にあたっている。授業以外にもサークル活動やスポーツによる学年を越えた学生間の交流、保育士試験対策・語学、公務員試験における小論文対策の勉強会を実施している。このように法人内の大学と連携し、社会福祉学を中心に経済、法律、観光、栄養など幅広い知識を修得し、将来の選択肢を広げるための学びの場を提供している。